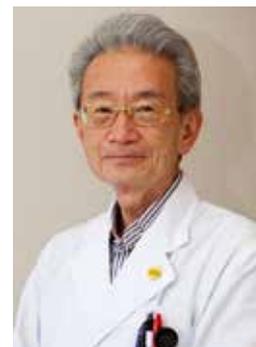


## 新人を迎えて

# いきいきと充実した人生を 過ごして下さい！

社会医療法人近森会

理事長 近森 正幸



### 現在は日本の医療の転換期

前回 2 年前の診療報酬改定でアウトカム評価が導入され、急性期ばかりでなく回復期、慢性期医療も入院患者の入院制限が起こり、日本の医療は大きく変わろうとしています。

今年 4 月の診療報酬改定では、アウトカム評価がさらに強化されます。人口が少なく、病院、病床数の多い高知県においては稼働率の低下や病棟閉鎖、病棟機能の変更、病院から施設である介護医療院への転換、さらには廃院などが全国に先駆けて身近で起こるようになります。

### 近森会グループのグランドデザイン

近森会グループ全体では 792 床の病床を有しておりますが、競合病院が多く急性期の患者数が少ない高知県に立地しているため、792 床すべてを急性期にするのではなく救命救急センターの近森病院 512 床であっても高度急性期から急性期病床は 418 床、地域包括ケア病床 34 床、総

合心療センター 60 床と急性期病床を絞り込んでいます。

さらには脳卒中、脊損対象の全館回復期リハビリ病棟である近森リハビリテーション病院 180 床と整形外科のリハビリを提供する近森オルソリハビリテーション病院 100 床と密接に連携し、地域にはなくてはならない医療を提供しています。

### この 10 年間のハード改革

近森会グループは、少子高齢化時代の地域医療の激変を予測し、10 年かけて着実に病床の増加と医療の質の向上を行ない、入院患者数の増加を図ってまいりました。近森病院は 338 床から 452 床に増床し、第二分院の精神科を 60 床の急性期病棟に特化して本院に統合しました。

さらには近森オルソリハビリテーション病院を立ち上げるとともに、7 カ年計画で近森病院の全面的な増改築工事、近森リハビリテーション病院の新築移転、近森オルソリハビリテーション病院の改築移転を行な

いました。ハードを全面的に整備するとともに救命救急医療に特化してリハビリとの垂直統合で在宅復帰を推進、地域医療連携を徹底しより密接なアライアンス連携の推進、多くの高規格病棟との有機的な病棟連携、さらには多職種による病棟常駐型チーム医療を構築し、医療の質の向上を行なってきました。

### 新人の成長を期待して

多くの先輩達の努力で、地域に真に求められる医療のシステムが出来上がっています。私たちは医師、看護師ばかりでなく多職種が病棟へ出てそれぞれの視点で患者を診て判断し、介入する病棟常駐型チーム医療をすべてのステージで展開しています。新人の皆さん、どうか、医師の指示で業務をするだけでなく、それぞれが自律、自働し、専門性を高め、患者さんのための医療を行ない、いきいきと充実した人生を過ごして下さい。

ちかもり まさゆき



## GCMN (Giant congenital melanocytic nevi 巨大型先天性色素性母斑)

近森病院形成外科

部長 赤松 順

形成外科の進歩は、詳細な血管支配領域の解明による皮弁開発による安全な組織移植や、バイオマテリアルを含む再生医療の技術革新によって成されてきました。人体最大の臓器である皮膚、皮下組織を対象としたスキンサージェリーの分野で、巨大型先天性色素性母斑 (Giant congenital melanocytic nevi 以下 GCMN) の治療に関する、最近の話題を 3 回に渡ってご紹介致します。

### 4月の歳時記

#### ガーベラ

近森病院 6 階 A 病棟  
看護師 西山 綾乃



南アフリカで発見されてからまだ 100 年ほどの新しい花、ガーベラ。その花名は、ドイツの植物学者ガーバー (Gerber) の名前にちなんで名づけられました。花言葉も色によって異なりますが、ガーベラの花言葉は、『希望』『常に前進』『前向き』『美しさ』『感嘆』です。学校や会社への入園・入学・入社といった、これから頑張る人に向けたプレゼントにピッタリです。

にしやま あやの

絵も筆者



ます。

GCMN は、出生時からみられる 20 cm 以上の色素性母斑 (小児の頭頸部では最大径 9cm 以上、その他の部位で最大径 6cm 以上) のことで、発生頻度は、新生児二万人に一人、黒色～褐色調を呈し、黒色の剛毛を伴うものは獣皮様母斑ともいわれます。悪性腫瘍の合併も報告があり、その半数以上が 10 歳までに発生するため、幼小児の切除が必要となります。

母斑細胞が存在する範囲は、皮膚のみに留まらず、皮下組織、筋膜や筋肉など深部組織に至ることもあり、切除後の皮膚軟部組織欠損の再建が問題となります。

当科では、1990 年代に承認され、10 年前には、基本手技として一般化してきた人工真皮を利用し、確実な母斑切除及び、人工真皮による真皮様組織の構築で、軟部組織を増大させることと、薄い植皮片でも厚い時と同等の質が確保できることによる患皮膚部 (移



▲黒色の剛毛を伴う獣皮様母斑植する植皮片の採取部位)の負担軽減による整容性の確保によって治療の質を高めてきました。あかまつ じゅん イラスト：近森病院麻酔科秘書 吉岡

#### 2018年2月の診療数 システム管理室

近森会グループ	
外来患者数	16,687 人
新入院患者数	872 人
退院患者数	887 人
近森病院 (急性期)	
平均在院日数	15.17 日
地域医療支援病院紹介率	65.04 %
地域医療支援病院逆紹介率	162.77 %
救急車搬入件数	476 件
うち入院件数	236 件
手術件数	379 件
うち手術室実施	260 件
うち全身麻酔件数	144 件

● 2018年2月 県外出張件数 ●  
件数 48 件 延べ人数 91 人

### ● 近森看護学校通信 25 ●

#### 高知龍馬マラソンボランティアに参加

近森病院附属看護学校 3 期生 森 七海

今回初めて高知龍馬マラソン救護ボランティアに BLS スタッフとして参加させていただきました。BLS スタッフとは一次救命処置を主とした救護対応を行なうスタッフのことでコース上に一定間隔に配置されます。

そこでボランティアに参加する前に学内で、モデル人形を使い心臓マッサージや AED の使用方法などの BLS 講習を受けました。高校生の時に看護体験で何度か心臓マッサージを行なったことはありましたが、実際やってみると胸骨を圧迫する力が弱かったので改めて教えていただくことができて良かったです。

高知龍馬マラソン当日は雨も降ら

ず一緒にいたボランティアの方が言われるにはマラソンに最適の天候だったようです。私の立っていた場所は 40km 地点で、スタート開始から最終ランナーの方が通過される頃には約 6 時間経っていました。ランナーの方たちはとても疲れて苦しうにされていましたが、声をかけると「ありがとう、大丈夫やきね」と笑顔で返してくださりとても嬉しかったです。今回は幸いにも練習した心臓マッサージや、AED を使用する場面はありませんでしたが、今後もし目の前で誰か人が倒れた時には自信を持って救護したいと思います。

もり ななみ

## 結石内視鏡治療の第一人者より 技術指導を受けて



近森病院泌尿器科部長 瀨口 卓也

◀松崎先生を囲んで、前列左が筆者

日本での結石内視鏡治療の第一人者である大口東総合病院泌尿器科の松崎純一先生に当科での結石内視鏡治療の技術指導に来高いただいた。大口東総合病院には、昨年は筆者、本年は当科茸石医師が見学をさせていただいたという経緯もあり、今回の技術指導に結び付いた。

見学させていただいた松崎先生の手術は非常に丁寧で安全な操作を心掛けているようで、低侵襲な内視鏡手術では必須の条件である合併症を起こさないように注意深く操作を行っているという印象であった。結石の内視鏡治療

は現在大きく分けて二つの方法がある。一つは尿道からアプローチする経尿道的腎尿管碎石術（以下TUL）、もう一つは背中から直接腎臓にアプローチする経皮的腎碎石術（以下PNL）、もしくは両者の併用手術（以下TAP）である。当院での治療実績はTUL451例、PNLもしくはTAPは86例施行し、県内の結石治療に多少なりとも貢献しているのではないかと自負している。

今回は茸石医師がTAP2例、TUL1例計3例を直接手術指導いただき、「やはり見学するのと実際に指導を受けるのでは全然違う、今後の手術に非常に自信がついた」と感銘を受けていた。他、県内の若手泌尿器科医数名が見学



し、エキスパートの技術に刺激されつつ、各々それぞれに感銘をうけていたようだ。これを機会に当院ならびに県内の結石治療の発展の一助となれば幸いである。今後も近森病院泌尿器科は結石治療だけでなくその他の泌尿器疾患も含め、日々発展を目指し、県民、市民の診療・治療に邁進するつもりである。 はまぐち たくや

### 献血キャンペーン

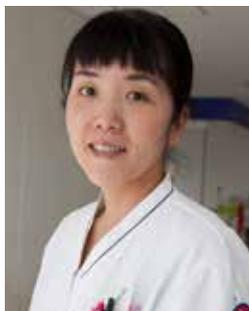
ありがとうございました。

2月23日（金）の献血に、56名の方に協力いただき、ありがとうございました。次回は4月25日を予定しています。よろしくお祈りします。

### 看護部 キラリと光る看護

### ～認定看護師シリーズ～

肩に認定看護師のワッペンとバッジをつけています▼



### 前進あるのみ

皮膚・排泄ケア認定看護師 安松 和美

皮膚・排泄ケア認定看護師（WOCN）になったばかりの時にここで自己紹介させてもらったことをつい昨日の事のように覚えています。あれから約4年が経過し少しは成長できたのでしょうか？自分がどのように活動するべきか迷い悩み、思い通りにいかない事が多く挫けそうな時もありますが、患者さんからの「あんたがおって良かった」という言葉と「WOCNになる！」と決意したあの日の熱い気持ちを支えにし、自分を奮い立たせています。

WOCNはストーマケアや褥瘡・創傷・失禁に関する予防的・治療的なスキンケアを専門領域とし活動しています。入院中は疾患に対する治療が優先されスキンケアは後回しになりがち

です。しかしスキンケアは看護の基本でありすべての患者さんに必要で、特別な技術や道具がなくてもできるケアです。スキントラブルが発生してからケアを行うのではなく、スキントラブルが発生する前からできることはないかを考えてケアに繋げ、患者さんの不安を少しでも軽くできるようなケアを提供できるようにいつも心がけています。

挫けている暇はありません、前進あるのみ！まだまだ未熟な私を頼って声をかけてくれる患者さんやスタッフのために今自分にできることは何かを考え専門職としての責任を持ち、明るく笑顔で元よく活動していきたいと思っています。

WOCNの七つ道具を忍ばせた白い靴を斜めにかけて毎日院内をラウンド



しています。見かけた際にはいつでもお気軽にお声がけください。

やすまつ かずみ

## 2期生5名が巣立ちました。

看護師特定行為研修責任者 川村 佳代

昨年6月1日から2期目の看護師特定行為研修がスタートし、10か月間の研修を経て去る3月16日、2期生5名全員に修了書を授与致しました。受講生は、研修が進むにつれ、点と点であった知識が少しずつ、線でつながっているのを感じることができる

ようになったようです。現在では「医師の記録が理解できるようになり、病態や看護の問題点がより明確になってきた」と言っています。今後、臨床にて患者さんの問診と身体所見から状態をアセスメントし「特定行為を実践する看護師」5名に心からエールを送り



たいと思います。最後になりましたが、研修にあたりご指導くださいました講師の皆様には厚く御礼申し上げます。

かわむら かよ

## 2期生代表挨拶

看護師特定行為研修修了者

JA高知病院 看護師 西森 由香利

私が看護師特定行為研修受講を決めたのは、近森病院という近くの施設で、家族から離れることなく子育てをしながら勉強できる、という大きなメリットがあったからです。まず、このような研修環境を整えてくださった近森病院に対して、心からお礼を申し上げます。この研修では、病

態・解剖生理・薬理・臨床推論（医師の思考過程）などを体系的に学ぶことができました。また実習では、最先端の医療やチームワークを目の当たりにし、チーム医療のすばらしさを実感することができました。今後はさらに、治療内容や予測される病状変化についてしっかりと理解し、特定行為を学ん



だ看護師として対応していけると感じています。そして、これからも共に学んだ修了生の仲間と、高知県の医療の質の向上に貢献したいと思います。

にしもり ゆかり



▶左から4人目、新委員長に就任した入江近森病院副院長



## リレー エッセイ

### カブトムシといたちごっこ

近森病院医療福祉部

ソーシャルワーカー 島崎 友映



その日は部屋がカブトムシだらけで、足の踏み場もないほどでした。なぜこのようになったのか頭を抱えながら紙袋に集めましたが、元気なカブトムシは次々と紙袋から出てきてしまい、カブトムシといたちごっこをする・・・という年末にみた衝撃的な夢の話です。私はよく夢をみます。ボールを落としたらえらいことになるドッジボール大会の夢や、エレベーターの勢いがすごくてそのまま大空に飛び出す夢など、ありえなくても夢の中では夢と疑わないこ

とが不思議でなりません。

夢の内容を覚えていた時はどんな意味をもつのだろうと、携帯で「カブトムシ 夢占い」という風に、つい夢占いをしてしまいます。夢に関しては、まだまだ解明されていない事も多いと聞きますが、記憶や気持ちの整理、起こりうることへのシミュレーション、創造力を鍛えるなどの役割があるそうで、なんだか有り難く感じます。だから、夢占いをする

時はどんな結果でも楽しく解釈をすることにしています。

お昼休みに、カブトムシといたちごっこをした話を聞いてもらったところ、まさかの「私も夢占いでしてまいります！」と同僚。話を聞くと、みた夢の内容を記録していく、夢日記を一時つけようと思っていたのだとか。面白そうな日記だな～。ご飯を食べながら、みんなで夢話に花が咲きました。ちなみにカブトムシは、金銭面で幸運な出来事に恵まれるというもの。宝くじの購入を勧められ、夢のある年末を過ごしました。こんな話をしながら、お昼休みは楽しく北館の相談室でお昼ごはんを食べています。

しまさき ともえ

## 平成 30 年度診療報酬改定と DPC

▼小山先生を囲んで  
後列右が筆者



社会医療法人近森会  
管理部長 寺田 文彦



▲東邦大学小山信彌教授

東邦大学医学部の小山信彌特任教授をお迎えして、3月7日、第161回地域医療講演会が開催され、当日は院内外より249名もの参加者がありました。

小山先生は中央医療審議会の専門組織であるDPC評価分科会の会長をされた経験があり、DPC (Diagnosis Procedure Combination) 制度に造詣が深い方です。DPC / PDPS (疾病別1日包括診療支払制度) が開始されてから14年が経過し、制度の構築から医療の質の評価に移りました。今回の改定は医師、看護師中心の少数精鋭の医療から、多職種による多数精鋭

のチーム医療の重要性を示唆した改定内容が盛り込まれていると報告されました。

早く元気になって自宅に帰っていただくという付加価値を提供するために、膨大な業務を行ないアウトカムを出すことでDPCの評価が得られます。目先の点数に左右されず、まっとうな医療を続けることが、DPC制度の質向上に最重要であるとの説明をされました。

専門性の高いスタッフの数を増やし



医療従事者の業務負担を軽減しながら、安全で良質な医療提供を行うことが病院経営に不可欠であることを示唆された、有意義な講演会であったと思います。

てらだ ふみひこ

### ザ・RINSHO

## ありがたいの気持ちを忘れずに

近森産業株式会社  
セブンイレブン店長 右京 学人さん



平素よりお世話になっております。近森産業株式会社は、昭和48年に近森病院内の「久食堂」という食堂から始まり、食品製造と施設管理を行なっている会社です。現在の近森会での取り組みをご紹介させていただきます。

### \* 駐車場運営



病院に来られる患者さんと初めてお会いするところです。お客様の立場に立ち業務に取り組んでおります。

### \* 当直お弁当

病院で働く皆さんが健康に働いて頂けるよう、高知県産の食材を使用し、既製品ではなく全て手作りで製造しております。

### \* 病院売店

入院中の患者さんに通常生活に近いように入院治療をしていただきたいと日用雑貨にとどまらず医療雑貨の充実にも力を入れております。

### \* セブンイレブン

病院という場所柄、より安心で美味

しい商品を提供したいという思いから、保存料・合成着色料を一切使用していない商品が魅力のセブンイレブンをオープンしました。

うきょう まなぶ



# 近森病院を退職するにあたって

## 木蓮の咲く頃

近森病院呼吸器外科 部長 山本 彰

近森病院に入職するきっかけは、2000年に実父が不慮の事故で、当院で人工呼吸器を装着しての療養生活を過ごしたことでした。現在のA棟に建っていた本館病棟に、大学病院の勤務が終わって夜になって通う生活が7カ月に及びました。その時に関わっていただいたスタッフの姿を見ていて、理事長の面会を求めて勤務をお願いしたのは、江ノ口川河畔に白木蓮の蕾が膨らむ2001年の春でした。

呼吸器外科を立ち上げ、当初は気管支鏡検査なども一人でやっていたのですが、現在では石田先生など呼吸器内科の先生ともに気管支鏡下超音波検査や局麻下胸腔鏡検査など、全国レベルに遜色ないことができていると思っています。それは顔を合わせるとカンファレ

ンスができる小回りのきく関係があるおかげであると思っています。

また赴任直後から災害対策委員会や救急委員会に加わり、心肺蘇生や外傷教育のコースに関わり、防災訓練の開催や災害対策マニュアルの作成を行ってきました。

2011年の東日本大震災に石巻市での医療活動を経験し、地域の防災に考えることができ、多くの学びを得ることができました。

しかし身体があちらこちらで悲鳴をあげていることを自覚して、今回退職することに至りました。これからは療養や在宅医療の現場で微力ながら携



わって行ければと考えております。

外は白木蓮が終わり、小川沿いの赤い色の木蓮の季節に移ろってきました。

17年間大変お世話になりました。そしてこれからも地域支援病院としてよろしくお願いします。

やまもと あきら

## あっという間の10年でした。

近森病院泌尿器科 主任部長 谷村 正信

2008年2月に入職し、10年越えてお世話になりました。泌尿器科医になり、高知大学を中心に、3年前後で公立病院の異動を繰り返していた自分にとって、近森会は非常に居心地の良い職場でした。泌尿器科医になった当時の医療（切る手術）と近森会に赴任した頃の医療（内視鏡手術）は天と地ほどの違いがあり、医療ニーズに合わせた診療を行うためには、新しい機器や技術の導入は必須でした。

その点、近森会には必要な機器の導入には理解があり、積極的に手術含めた診療の展開ができました。機器が導入できても、スタッフが動かなければ今の医療は進みませんが、近森会のスタッフは、医療に対して前向きで（よく勉強してくれます）、スムーズに新

しい機器を導入し、新しい治療を進めることが出来ました。

この10年近森会の泌尿器科に関しては、全国と比較しても遜色の無い医療を続けて来たと考えております。しかし、今後の10年を考えた場合、更なる新しい技術・医療の導入は必須で、少々ポンコツになって来た頭や体では対応が難しく、若い先生方に後を託す時期と考え、退職するに至りました。

今後は少し仕事を絞り、高知県透析医会会長の立場で、南海震災発災時のマニュアル作成など、高知県内の透析患者に対する医療の継続の検討を行なう予定です。透析室のスタッフや秘書



の方々には、高知県透析研究会運営で大変お世話になりましたが、引き続き、研究会含め、ご協力宜しくお願いいたします。

近森会の事務を含め、全スタッフの皆さん、10年間の長い間、有難うございました。

たにむら まさのぶ

## 近森を永久に愛す。

近森病院整形外科 部長 上田 英輝

2008年に高知大学を辞し、近森に再就職して早10年が過ぎました。当時は急性期外傷治療がしたくて大学病院には居場所が見いだせず、教授を説得してなんとか近森に戻れたことでした。

なぜ近森に戻りたいのか？当時の自分には大学病院なんかよりハード・ソフトともにずっとずっと凌駕して輝いた病院として近森が映っていたからです。そして衣笠整形外科部長の目指す近森の外傷治療が楽しく忘れられなかったからです。戻ってからの日々は確かに辛い仕事の連続でしたが、楽しく頼もしいスタッフ達に囲まれ、毎年のように進化改良拡充されていく病院施設の中で、患者さんに寄り添った治療を提供できたかなと思っています。

記録ではこの10年間で約3,000件の手術治療に携わる事ができました。10年前の自分に対しては自慢できる数字かと思えます。ただ数字ばかりが外科医の仕事ではありませんし、何より苦楽を共にしてきたスタッフ達が自分にとっては大きな財産となっています。近森を有名にさせたチーム医療を具現化してきたこのスタッフ達がいなければ自分の活躍もなかった訳で感謝しきれません。この場を借りてお礼申し上げます。

これからは地方の地域医療に携わります。急性期医療から次のステージに移った患者さん達を自宅に戻すお手伝



いをしようと思います。その中で少しずつ自分の時間も作って、二十何年も突っ走ってきた私を何も言わず支えてくれた妻を労ってあげられたらと考えております。

皆さん、本当に今までありがとうございました。

うえた えいき

近森会保育室 **そるこ** 3月10日に西島園芸団地でお別れ遠足会を楽しみました。



### ワイン講座 ● 63 最終回

#### ぶどう品種を知り、個性を探る その41 ポルトガル篇

#### マリア・ゴメス

ポルトガルのワインは、販売する私どもにとっても聞きなれないぶどう品種で造られており、品種を聞いただけでは、その風味を創造することが出来ず、厄介な存在と言っても過言ではありません。

しかし、長い歴史に裏打ちされた各地方の固有の品種が主体で造られ、初めて聞く名前も多く、味わうまでは、未知との遭遇といった感じでしょうか。

今回、ご紹介するマリア・ゴメス種は、ポルトガルで最も多く栽培される白ぶどうで、ポルトガル中部のバイラーダ地方を中心として、白ワイン用と、スパークリングワイン用として栽培されています。

海とプサコ山脈の間に広がる海岸地区は、大西洋の影響を受け、豊富な雨量と温暖な気温に恵まれています。この涼し

マリア・ゴメス・ブランコ/ルイス・パト/ポルトガル、バイラーダ地方 ● マリア・ゴメス種特有の香りの強い白い花の香り。爽やかな口当たりと切れ味の良いあと味。前菜から魚介類まで、様々な料理を引き立ててくれます。また、これからの暖くなる季節には、爽快感もありお勧めいたします。

く湿気が多い気候が、スパークリングワインの製造に理想的な、非常に酸味が強く理想的な葡萄を生み出し、ポルトガル全体の60%近くを生産しています。

比較的早期に成熟し、汎用性のある品種で、フルーティーなタイプから辛口まで、そしてスパークリング。

ワインを飲み始めようと思っている方にも、価格もお手頃なのでお勧めいたします。

鬼田知明 (有限会社鬼田酒店代表)



5年以上連載を続けていただきました。ありがとうございました。

### 新シリーズ「なんでもフリーコーナー」 近森スタッフの OnOff

近森病院救命救急病棟

看護師 伊與田 錬

韓国風ファッションが好きなので、ポイントシャツをインすることです。



#### 「なんでもフリーコーナー」

「ペットを紹介したい!」、  
「ON OFF でギャップのあるスタッフを紹介したい!」、  
「家族・愛妻自慢!」など、  
どんなテーマでも OK です。今月号から各部署リレーで回りますので、お楽しみに!

# 乞！熱烈応援

新たな気持ちで

和を以って貴しとなす

知力・体力・胆力をもって



近森病院手術室  
看護師長  
井上 みよこ

就職した当初は5室までしかなかった手術室も、今は11室まで増え、スタッフの数も二倍に増員されました。

新しい治療、新しい機械が次々と現れ処理しきれない毎日ですが、周りのスタッフと助け合いながら、やりがいのある仕事ができるように盛り上げていきたいと思えます。

いのうえ みよこ



近森病院総合心療センター  
メンタルリハビリテーション部  
部長兼作業療法室室長  
山内 学

この32年間は安定して精神科リハビリテーションを展開してきました。今後も、患者さんがその人らしさを失くすことなく心豊かに生きていけるように積極的に取り組めるサポートをしていく部門としてパワーアップしていきます。スタッフとの連携を円滑に行っていく予定です。今後ともご協力をよろしくお願ひします。

やまうち まなぶ



近森病院総合心療センター  
メンタルリハビリテーション部  
デイケア室室長 川渕 忠義

近森で18年、この間精神科を取り巻く環境は大きく変化してきました。たくさんの方々に支えられて、今があることを実感しています。室長という重責を感じつつも、仕事ができることの喜びや周りへの感謝の気持ちを忘れず、知力・体力・胆力をもって前進していこうと思ひます。今後も精神科チームの発展のために尽力してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

かわぶち ただよし

## 新人看護師研修「振り返りの会」

2018年3月10日

### さらに成長したい思ひをつないで

看護部キャリア開発課看護師長 久保 博美



▼次年度新人看護師へのメッセージを作成しました



各部署の協力を得て、新人研修「振り返りの会」を実施しました。個人発表では、成長できたと考える点や課題への取り組みなどについて共有し、「忙しい時間にこんなことを聞いてもいい

のか」と悩みながらも先輩に助けられ教えてもらったこと、その中で学んだことが多く語られました。患者さんをケアするため、自分のセルフケアの重要性への気づきがあるなど、「1人前

"Nsに向かってさらに成長したいという熱さが伝わってきました。

研修の最後に1年間の歩みを映像化したもの(作成協力:5C山本暢明Ns)の中で流れた、Mr.Children「HANABI」の歌詞「もう1回もう1回僕はこ

の手をのぼしたい」が、上記成長したい思ひと姿に重なって見えました。今後も必要な支援・応援をさらに続けていきたいと思ひます。

くぼ ひろみ



## 心臓血管外科秘書の見学を通じて

医療法人澄心会 岐阜ハートセンター

外科クラーク 石原 志保さん

ペイシェントサービス 上野 有香さん

私たちは、岐阜ハートセンターの石原志保（外科クラーク）、上野有香（ペイシェントサービス）と申します。2月26日から2日間、心臓血管外科主任部長兼副院長である入江先生のご厚意にて近森病院の秘書業務の見学をさせていただきました。岐阜ハートセンターの富田副院長から近森病院の心臓血管外科の秘書の方々へのすばらしさを常々聞いていましたので、大変楽しみにしておりました。

見学初日の朝、まずヤシの木がそびえる道路に面して建っている病院の立派な外観に圧倒されました。最初に見学させていただいたのはコックピットのようなICUで行われるモーニング

カンファレンスでした。参加されている職種と人数の多さに驚き、回診では入江先生と他の医師やコメディカルスタッフとの打てば響くようなやりとりの様子、そして外来診察室での秘書の方々の無駄のない動き、あうんの呼吸のサポートなど、感動することばかりでした。見学中もいろいろな方に気さくに話しかけていただき、質問にも笑顔で答えていただきました。この貴重な経験を岐阜ハートセンターへ持ち帰り、医師の業務軽減の一助としたいと思っております。お忙しい中、秘書の方々を始め、心臓血管外科の先生方、各部署の



方々本当にありがとうございました。今回は病院見学のみとなりましたが、次回はぜひ高知県の名所を訪れてみたいと思っています。

いしはら しほ  
うえの ゆか

## 出張報告

2018年2月18日



## 尿細胞診のおはなし

近森病院臨床検査部病理検査室

臨床検査技師 今本 隼香

2月18日、高知医療センターにおいて「泌尿器疾患と臨床検査」をテーマに高知県臨床検査技師会平成29年度生涯教育研修会が開催されました。生涯教育研修会は臨床検査技師を対象とし、知識・技術水準の維持向上を目指すためのものです。

泌尿器領域における臨床検査には、尿検査、細菌検査、超音波検査、病理検査などがあります。私は今回の研修会で尿細胞診を担当し、尿路の解剖、肉眼分類と組織分類、尿細胞診の意義や検体処理法、泌尿器細胞診報告様式2015で示されている細胞の見方と判定法など講演させていただきました。

尿路に発生する悪性腫瘍の90%以上は尿路上皮癌とされています。尿細胞診はハイリスクグループのスクリーニング、画像検査や膀胱鏡検査では診断が困難な上皮内癌の診断、治療

後の経過観察に有用であり、当院で提出される細胞診では一番多い検体数となっています。尿細胞診に求められていることは高異型尿路上皮癌の存否であり、尿細胞診で悪性と診断された症例の95%以上に高異型尿路上皮癌が存在すると言われています。

泌尿器系疾患でもっとも多い症状は血尿で、特に悪性腫瘍では痛みを伴わない無症候性血尿であることが多いです。痛みがないからといって放置せず



受診し、早期発見・治療が重要です。また、最大の発癌因子は喫煙であることは知られており、予防は発癌因子を遠ざけること、つまり禁煙ですが、困難な方は水分をたくさん摂って、尿中の発癌物質を希釈するとともに膀胱内から早く排泄することにも意味があるそうです。

いまもと はやか



### 図書室便り 最終回 2018年2月受入分

- 頭頸部癌取扱い規約第6版 2018年1月 / 日本頭頸部癌学会 (編)
- 医療六法 平成30年版 / 中央法規出版 (刊)
- 入門医業経営指標～病院の経営課題がわかる～ / 公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会 (編)

今後はサイボウズ掲示板にて掲載予定です。

## 私の趣味

# 全力疾走しながらチェスをするスポーツ「卓球」

初期研修医2年次 西田 一平



就職してすっかり運動しなくなった私ですが、現在でも続けているのが卓球です。地味だとかいわれがちですが、瞬発力や体力、思考力を高いレベルで要求され「全力疾走しながらチェスをするようなスポーツ」

と喩えられる奥深い競技です（チェスの事は一切存じ上げません）。最近ではジュニア世代の活躍をテレビで目にする機会も増えましたね。

卓球が他のスポーツと決定的に違うのが、選手の年齢層の広さだと思います。ようやく台から顔が出るくらいのちびっこからご年配の方まで、幅2m強の台を挟めば試合が成立します。そして戦略や試合運びを工夫すれば、経験年数や体格、筋力などの圧倒的な差を覆せてしまうところが面白いのです！（私も子供からお爺ちゃんま

で幾度となく覆られて、...）。

年齢も職種も超えた繋がりが出来ることも楽しみの一つです。実は院内でもこっそり？活動中です。卓球を通じた交流には、今までに無い新たな発見や驚きがあります。患者さん目線のお話が聞けるのも大変勉強になります。当面は来月開催の県リーグが目標ですが、生涯スポーツとしてずっと続けていけるよう、健康でいたいと思う今日この頃です。

にしだ いっぺい



## ニューフェイス

①所属②出身地  
③最終出身校  
④家族や趣味のこと、自己アピールなど



樋口 眞也

ひぐち しんや ①脳神経外科医師②大阪府③高知大学④看護師時代に入職を検討した近森病院に、縁あって医師として勤務できることを嬉しく思います。

## おめでとう

## 編集室通信

今回は60回目の「お弁当拝見」だったが、誌面の都合で割愛させてもらった。「弁<sup>そな</sup>えて用に当てる」ので辨<sup>そな</sup>當の字が当てられ、起源は平安時代。当時は「頓<sup>とんじき</sup>食」とも呼ばれたおにぎりだった。今は「お弁当」を「拝見」しても、実に多彩で、見ても楽しくなる。ちょうど桜の時期から新緑のすがすがしい時期、お弁当をつくって野や山に出かけたい。（霖）

## 人の動き

敬称略

## 愛情いっぱい之恩返し

### 高倉健さんが亡くなった！

悪性リンパ腫のために俳優の高倉健が亡くなった3年半ほど前。それは、和田絢世さんが国立病院機構高知病院附属看護学校を卒業後、広島血液内科専門病院に新卒で入って間もない時期だった。病棟で、高倉健のニュースは「他人事ではない」と、より深刻に受け止められた。明るくキビキビ元気な笑顔、プラス癒しパワー全開で患者さんに接するよう努めても、重い事実がのしかかる。

悩んだことは、「看護師の自分にいま何を望まれているか」だった。相手の身になるとか身内と思って接するとか、言葉ではいっぱい習ってきた対応を、いかに実践に活かすかが課題となった。

ドクターは血液データを基に個々の患者に対応し、絢世さん自身は周りのスタッフとともに、「どうすれば目の前の患者さんに少しでも安心してもらえるのか」、「自分ならどう対応してもらいたいのか…、悩み、もう必死…」で、何とか切り抜けた当時を振り返る。

### 忘年会表彰式で「MVP賞」獲得

その試練がいま、近森病院2年目の絢世さんの原点だったのかも知れない。昨年末の近森会グループ表彰式では、「親しみのある言葉がけができる」、「なんだか心が落ち着く」など、患者さんアンケートでもお褒めの言葉をいただき、MVP賞が贈られた。

新卒からは5年目、同級生の勧めもあり近森病院に移って、まだ病棟の「リーダーデビューしたばかり。仕事



▲仁淀川上流域に仲良しと休みに。美しい空気で幸せ感満喫！はじける笑顔！



を覚えるのに必死の毎日」でもある。

そういったなかでの最優秀個人賞は、大きな喜びであり、また一定の自信にも繋がったようだ。

いま、いちばん大事にしたいことは「患者さんと信頼関係を築くこと」だと思っている。だから、病態について話を取って患者さんとしめない場合もあるという。つねに「自分の立場でできること」を考える。「実際、どれだけ患者さんのことで想像力を働かせることができるか」。結局はこれに尽きるようにも思えるという。

### 最高のサービスの源を辿る

患者さんに優しく、人に優しくをどう表現するか。言葉ではどう伝えるか。

看護師という立場で、患者さんにできることは何か。自分が居ることによってどういう役割が果たせるか。そんなことを縷々考える日常が、つまり「最高のサービス提供者」の評価に繋がったという面もあるのだろう。

そこで、やっぱり「最高のサービス」に繋がった源を辿ってみたい。

結論からいえば、「母の生き方そのもの」に受けた影響が大きいようだ。母親と妹と三人の母子家庭で育ったためだろうか。

何かあれば学校の帰りにでも母親の勤め先の個人病院に寄らせてもらって

いた。そんな環境が病院を身近に感じさせたのだろうか、小学校時代にはすでに、「自分も大きくなったら看護婦さんになる」以外の選択肢は思い描けなかった。

「癒しパワーの権化<sup>ごんげ</sup>」であろう母親像…は、「自転車の怪我で入院したとき、ずっと付きっきりで看病してくれたこと」が印象深いようで…。

結局、娘二人を「いつも思いっきり愛して可愛がってくれて、患者さんにはいつも一生懸命接していた姿」しか浮かばない。そして、忙しい母親に代わり面倒みてくれた祖父母の優しさ。「家族がいちばん好き。家族みんなにすごく大事してもらい、いっぱい愛してもらった」。あと、「母はメリハリの利いた人で、テキパキしていて……」。

そして、進学でも就職でもいっさい母親のアドバイスには従わなかったのに、娘が決めたことだからと全力で背中を押してくれた底抜けの包容力。

そんな家族の溢れる愛情が、今日の絢世さんの「最高のパフォーマンスを育てた」といえそうだ。

風邪も滅多にひかないし、病休は取ったことがないという「カラダだけは丈夫です！」の毎日。張り切り過ぎずに息長く、理想の看護が提供できる医療者に成長してもらいたい。

## 2017年度 近森病院附属看護学校 ● 卒業式



学校長式辞（左上）、卒業証書授与（上）  
◀優秀賞受賞者のみなさん



## 3年間ありがとう

3年生担任 上総 満高



看護学校にとって初めての卒業式。3年間担任をして、きっと別れが悲しくて涙するだろうと思い、普段は身につけないハンカチをポケットにしおけておきました。卒業生入場から始まり、卒業証書授与では一人ひとりの名前を呼びながら思い出が駆け巡りました。そして、特別表彰、答辞、「花は咲く」斉唱と式が進むにつれて、もうすぐ別れがくる寂しさに目頭が熱くなりました。しかし、それ以上にたくましく成長した姿を見ていると、これが

ら看護師として活躍していく姿を思い浮かべるだけで清々しい気持ちになりました。

卒業式を終えて3年間をふり返してみると、楽しい思い出しか浮かんできません。大変だったこともあったはずですが、それを楽しい思い出に全て変えてくれたのだと思います。1期生の担任だったことを誇りに思うと同時に、この1期生でなければ私は教員としてここにいなかったと思います。つくづく彼らが私を教員にしてくれたの

だと感じています。

3年間共に歩いてくれて本当にありがとうございます。そして、1期生の担任としてこれからも成長を見守り続けていきたいと思っています。ちなみにこの原稿を書きながらハンカチが手放せませんでした。  
かずさ みつたか

## 3年間を振り返って

卒業生 小松 史明



社会人から看護師を目指すことに、勉強や生活面に多くの不安がありました。実際、看護を学ぶことは楽しいことばかりではなく、覚えることも多く、実習となると記録や患者様にどのように看護を実践していけばよいのか等の苦労が多かったように思います。そんな

なとき先生方からの言葉がけや指導を受けることで卒業までたどり着くことができました。

看護学校の学生生活では、個人の学習はもちろん、年代も経験も違ったクラスメイトとのグループワークや実習等を通して、お互いの意見を共有する

ことや対立等を経験しながら刺激し合うことで、私自身が成長できたと思います。  
こまつ ふみあき